

2025 年度
豊橋創造大学 看護学研修センター
事業報告書

目次

I. センターの概要・目的	1
II. 2025 年度各事業活動状況	2
1. 看護技術研修事業	2
■ 看護技術研修会【エビデンスに基づいた摘便の知識と技術（エコー活用含む）】	2
2. 研究支援事業	5
■ 研究支援研修【EBP と文献活用力の向上】	5
■ 看護教員セミナー	9
■ 研究発表検討会	17
3. 看護実践質向上事業	19
■ 訪問看護ステーション研修	19
■ 家族支援研修会	22
4. 卒業生継続教育事業	29
■ 卒業生支援研修会.....	29
III. 看護学研修センター運営委員会	32
1. 2025 年度運営委員会組織.....	32
2. 2025 年度運営委員会会議.....	32
IV. 協力教員	33
V. 看護学研修センター評価委員会	33
1. 2025 年度評価委員会組織.....	33
2. 2025 年度評価委員会会議.....	33

I. センターの概要・目的

豊橋創造大学看護学研修センターは、東三河をはじめとする地域の看護の質向上を目的として設置された。医療現場において、看護職は患者や家族の日常的な健康管理、治療の支援、慢性疾患のケア、さらには在宅医療や介護支援など、あらゆる場面で重要な役割を果たしている。看護職は、多職種と連携しながら患者の生活を支え、治療やケアの中心的な役割を担っている。特に近年では、少子高齢化の進行、医療技術の進歩、医療ニーズの多様化により、看護職には高度な専門知識、技術、判断力が求められ、地域との密接な連携が必要不可欠となっている。

本センターでは、地域の看護職が求められる役割を十分に果たせるよう、「看護技術研修事業」「研究支援事業」「看護実践質向上事業」を実施している。看護技術研修事業では、現場の看護職が安全で確実な技術を身につけられる研修プログラムを提供している。研究支援事業では、看護職が自らの課題に基づいた研究活動を進められるよう支援を行い、研究成果を地域に還元することを目指している。また、看護実践質向上事業では、事例検討や訪問看護ステーション実習などを通じて、看護職一人ひとりの実践力強化を図っている。さらに、本学の卒業生に対する継続教育事業も今後開始する予定である。卒業後も最新の情報やスキルを学べる機会を提供することで、卒業生が生涯にわたって専門性を高め、地域に貢献できることを目指している。

II. 2025 年度各事業活動状況

1. 看護技術研修事業

担当：藤井徹也、林美佐、山本義昭、徳永麗子、高野純平、渡邊富士子

■ 看護技術研修会【エビデンスに基づいた摘便の知識と技術（エコー活用含む）】

1) 研修目的

本研修は、自力での排泄が困難な対象者に対する看護援助としての摘便について、安全かつ適切な技術を習得することを目的とする。摘便の粘膜損傷のリスクをふまえ、適切なアセスメントの重要性を理解するとともに、現場で活用できる最新の知識・技術を学ぶ。また、安全性の高い摘便技術の習得に加え、エコーを用いた便貯留の観察方法について演習を通して実践的に学び、より質の高い排泄ケアを提供できるようになることを目指す。

2) 研修内容

研修日時：2026 年 3 月 8 日（日） 13:00～16:00

開催場所：豊橋創造大学 E 棟 3 階 E35 教室

対象者：看護師、助産師

参加費：1000 円

研修構成

第 1 部：講義（60 分）

エビデンスに基づいた排便

第 2 部：演習（60 分）

演習 1：超音波（エコー）診断

演習 2：摘便技術

グループワーク、まとめ（30 分）

3) 活動内容

(1) 参加者募集

- ・看護学科主催の「実習指導に関する研修会」（2025 年 12 月 19 日）に参加している臨地実習施設の看護職に対して、看護技術研修会の概要と日時をメールで案内した。また、2026 年 2 月にリマインドメールを送付した。
- ・参加者申し込みには Google Forms を利用し、申込期限は 2026 年 2 月 20 日とした。
- ・参加申込者には、研修会 5 日前に、研修会案内をメールで送付した。

(2) 研修会物品準備

- ・ハテナボックス（エコー用キューブファントム）
- ・褥瘡エコーモデル
- ・膀胱・直腸エコーボックス
- ・肺エコー
- ・摘便（模擬殿部）

(3) 研修会役割担当

講義・まとめ：藤井徹也

摘便演習：高野純平、渡邊富士子

エコー演習：藤井徹也、徳永麗子、山本義昭

4) 研修会実施状況

研修参加人数：3人

<研修会の様子>



5) 研修会参加者アンケート結果

回答者数 3/3人

(1) 研修内容について

- ・研修の内容は、あなたの業務に役立つと感じましたか はい 100%
- ・研修の内容はわかりやすかったですか とてもわかりやすかった 100%
- ・研修の内容について、どの部分が特に役立つと感じましたか
摘便技術の基本 100%、摘便時の注意点 100%、エコーの活用方法 67%

(2) 研修方法について

- ・研修の進行速度は適切でしたか 適切だった 100%
- ・この研修を受ける前と比べて、摘便技術に対する自信はどう変化しましたか
とても自信がついた 33%、 自信が付いた 67%
- ・この研修内容を、今後摘便を実施する際に活用できそうですか はい 100%
- ・今後、摘便を実施する際にどのように活用しますか
対象患者家族の方へアドバイス
今一度、研修の伝達講習を行う
同行訪問で、実技をチェックしていこうと思う
指示書の再確認を行います
指を曲げないように気を付けられると思う

(3) 今後取り上げてほしいトピック

- ・ブランクがあいている看護師対象の研修会（看護技術）
- ・導尿、残尿確認、エコー

6) 今後の課題

(1) 開催日程

今年度は、日曜日開催したことについては、参加者から「土曜日だと業務扱いで研修会に参加できるため、参加者を増やすことに繋がる」との意見があった。このため、次年度は土曜日に開催できるように計画する。

(2) 研修テーマの充実

参加者からは、今回の研修内容については『満足』との評価を受けた。今後のテーマとしては『導尿・残尿測定』や『エコー』について希望が出されたため、次年度以降の計画の参考とする。

(3) 研修効果の評価体制の構築

研修会で学んだ技術や知識が現場で適切に活用されているかを把握することが必要である。これにより、研修効果を客観的に測定し、次回以降の研修計画に反映することができる。

※参考資料

豊橋創造大学
看護学研修センター研修会
エビデンスに基づいた挿便の知識と技術
《エコー活用含む》

Care & Idea
豊橋創造大学

「挿便」は、自力で排泄が困難な対象者への看護援助です。日本看護技術学会では、医療者の手技により粘膜損傷を生じる危険性があることや、グリセリン浣腸と挿便の併用の実施は避けた方が良いことを指摘しています。
安全な挿便の技術には、適切なアセスメントが重要となります。

今回の研修では、すぐに現場で活かせる**最新の知識の紹介と安全性の高い挿便の技術・エコーでの便貯留の観察**を演習を通して習得します。

対 象：看護師、助産師
場 所：豊橋創造大学 E棟3階 E34教室 **修了証が発行されます**
参加費：1,000円（当日現金による支払い） ***おつりがないようにお願いします**

2026年3月8日（日）
13:00～16:00
※12:30～受付開始

第1部：講義
挿便に必要な最新の知識とエコーの活用方法
第2部：演習
エコーでの便貯留の観察とモデルを使用した安全な挿便の技術

昨年度の様子
本学研キャンパスニュース
(2025.01.31掲載)より

ご予約・お問い合わせ
豊橋創造大学看護学研修センター内
看護技術研修事業担当
E-mail: t.kango-kensyu@sozo.ac.jp

【お申し込み方法】
右のQRコードより
お申込みください
締め切り 2026年2月20日

2. 研究支援事業

■ 研究支援研修【EBP と文献活用力の向上】（継続事業）

担当：桂川純子、原沢優子

1) 研修目的

本研修は、看護実践におけるエビデンスに基づいた実践（Evidence-Based Practice, EBP）と文献活用力の向上を目的とする。看護現場では、日々の実践の中で様々な疑問が生じるが、その解決には研究の知見が有用となる場合が多い。これらの知見を適切に活用するためには、信頼性の高い文献を検索し、クリティークする能力が求められる。研修では、EBP の基本概念を学び、文献検索の実際と研究論文の読み方について講義と演習を通じて習得する。これにより、参加者は自身の看護実践や研究活動において、より質の高いエビデンスを活用できるようになることを目指す。

2) 研修内容

研修日時

第1クール

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| ① EBP と文献の活用（講義） | 2025年6月26日（木）10:40～12:10 |
| ② 文献検索の実際（演習） | 2025年7月31日（木）10:40～12:10 |
| ③ 研究論文の読み方（講義・演習） | 2025年8月21日（木）10:40～12:10 |

第2クール

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| ① EBP と文献の活用（講義） | 2025年10月7日（火）10:40～12:10 |
| ② 文献検索の実際（演習） | 2025年11月11日（火）10:40～12:10 |
| ③ 研究論文の読み方（講義・演習） | 2025年12月16日（火）10:40～12:10 |

開催場所：豊橋創造大学 図書館 他

対象者：研究論文の活用や看護学研究に関心がある看護職者のうち、3日間の研修プログラムに参加できる者

参加費：各回 1000 円

募集人数：各クール 6 名（最低開講人数 2 名）

研修構成

第1回：「EBP と文献の活用」

内容：看護実践における EBP の重要性と文献の活用方法についての講義

第2回：「文献検索の実際」

内容：医学中央雑誌 web 版を用いた信頼できる文献の検索方法についての実践演習

第3回：「研究論文の読み方」

内容：研究論文の批判的読解力を向上させるための講義と演習

3) 活動内容

(1) 参加者募集

- ・2025年5月上旬に看護学科臨地実習施設に対して、メールで研究支援研修会の案内文とポスターを送付した。
- ・参加者申し込みには Google Forms を利用し、申込期限は区切らなかつた。

(2) 研修会準備

- ・参加者のレディネスについて、事前アンケートで把握し、講師間で共有した。
- ・参加者が本学図書館の設備や文献検索システムが利用できるよう、参加者用アカウントを準備した。
 - 本学指定のアカウント申請書を、情報管理委員長宛てにメール（PW付き資料）する
 - 申請するためには、氏名、カナ氏名、ローマ字氏名、所属機関が必要なので、申込時に情報収集する。
 - 2週間程度でアカウントが発行され、事務室にある担当者のメールボックスに投函される。

(3) 研修会役割担当

第1回講師：原沢優子

第2回講師：桂川純子

第3回講師：原沢優子、桂川純子

4) 研修会実施状況

第1クール参加者：2名 第2クール参加者：4名

（所属：看護学実習施設3か所、看護学実習施設関連施設1か所）

（研究の経験：研究発表等経験あり3名、自身での実施経験なし3名）

<研修会の様子>



第1クール、第2クールの参加者 計6名は、3回のプログラムに全て参加して研修を受けることができた。また、図書館の文献検索システムを利用して、各自のテーマに関する文献を検索することができた。

5) 研修会参加者アンケート結果

回答者数 第1クール 2/2 (100%)、第2クール 2/4名 (50%) 4/6名 (66.7%)

(1) 各回の満足度

a. 5段階評価結果

第1回：満足度5=4人

第2回：満足度5=3人、満足度4=1人

第3回：満足度5=2人、満足度4=2人

b. 回答理由の概要

- ・基礎知識を理解し、EBP の意義を理解できた。
- ・研究は疑問を明らかにするための取り組みであると学んだ。
- ・看護研究への抵抗感が軽減した。
- ・文献の読み方や目的と結果の整合性を意識する重要性を理解できた。
- ・これまでより効果的に目的に合った文献を見つけられるようになった。
- ・解説や見本の提示、答え合わせにより、自身の理解不足や改善点が明確になった。
- ・文献検索の方法やキーワードの絞り方を理解し、演習を通して実践的に学ぶことができた。
- ・内容は想像以上に深く、他の研修生との文献共有があればさらに理解が深まったと感じた。
- ・内容は有意義だったが、より時間をかけて演習できるとさらに良いと感じた。

(2) 開講スケジュール等について

a. 開講時間

「開講時間（10:40～12:10）はちょうど良かった」（4名）、

b. 曜日

「平日に行った方がよい」（3名）、「開講日に希望はない」（1名）

c. 1クールの回数

「ちょうどよい」（3名）、「回数はもっと多いほうがよい」（1名）

(3) 内容に関する要望

- ・「あまり役立たなかった内容」はなし
- ・有意義であった内容、今後期待する内容
 - －文献読解・クリティーク能力の強化
 - －PC 操作を含めた文献検索および整理力を高めるための演習
 - －統計・研究手法の基礎理解の補強
 - －思考力を深める発展的内容の導入

(4) 研修目的（文献検索力、クリティーク力）への評価

- ・文献検索力、クリティーク力共に「向上した」という意見であった。

(5) 参加に関する自由記述の概要

- ・一部施設で研修の広報が不足しており、周知体制の強化が必要である。
- ・休暇が取りにくかったり、夜勤前後勤務者に限定されるなどの制限がある。
- ・病院内での出張研修を実施すると勤務中でも参加しやすい。
- ・申し込み締め切りが早く他職員への案内に間に合わない場合がある。

6) 今後の課題

(1) 広報方法

昨年度よりも参加者が増えた（2024 年度 4 名、2025 年度 6 名）ことは、広報との効果があったと考える。ただし、一部の施設では情報が広くいきわたっていない状況があったり、実習施設関連施設からの参加があったので、施設長へのメール広報する際の文面を検討する必要がある。

(2) 参加費用

昨年度よりも参加費用を値上げした（2024 年度 3 回で 500 円、2025 年度各回 1,000 円）。内容に関する満足度は高く、参加費に対する参加者からの意見はなかったため、妥当であると考えられる。

(3) 研修時間と回数

「さらに学びたい」という声もあったが、1 クールの回数は「ちょうど良い」という意見が多い。

「さらに学びたい」参加者には、引き続き大学院への進学を広報する。病院内での実施を希望する意見もあったが、PC 環境などの面で課題が多いと考える。

(4) 研修内容

参加者からは提供している内容に加え、「統計・研究手法の基礎的理解」や「思考力を深める発展的内容」の要望が上がっている。参加者背景から、「研究をほとんどしたことがない者」、「研究指導を担っている（今後担う）者」などバラツキがあるので、内容を2段階（基礎編、中級編等）にすることを検討する必要がある。

※参考資料

豊橋創造大学看護学研修センター研究支援事業

「EBP と文献活用力の向上」研修

豊橋創造大学看護学研修センターでは、昨年度好評いただきました「EBP (Evidence Based Practice) と文献活用力の向上」研修を今年度も実施することになりました。看護実践における様々な疑問の中には、研究の知見が解決のヒントとなることがあります。これを活用するためには、信頼できる文献に出会う方法や、文献を読む力を身につける必要があります。本研修にご参加いただくことで文献検索力や文献クリティーク力が高められ、日々の臨床活動、研究活動の一助となることが期待されます。ご参加お待ちしております。

1. 対象者：研究論文の活用や看護学研究に関心がある看護職者のうち
3日間の研修プログラムに参加できる方
2. 場所：豊橋創造大学 図書館 他
3. 日程・内容・締め切り：下記表を参照
4. 参加費：各回 1000 円
5. 募集人数：各クール6名（最低開講人数2名、応募多数の場合は抽選）

少人数での研修です！


6. 申込方法：下記 QR コードから必要事項をご入力の上お申し込みください

本学図書館の医中誌などデータベースを今年度中使用できるようになります！


プログラム 申し込み締め切り	第1クール 2025年5月末日	第2クール 2025年9月8日(月)
① EBP と文献の活用（講義 90分） 講師：看護学科 教授 原沢優子	6月26日(木) 10:40～12:10	10月7日(火) 10:40～12:10
② 文献検索の実際（演習 90分） 講師：看護学科 教授 桂川純子	7月31日(木) 10:40～12:10	11月11日(火) 10:40～12:10
③ 研究論文の読み方（講義・演習 90分） 講師：看護学科 教授 原沢優子、教授 桂川純子	8月21日(木) 10:40～12:10	12月16日(火) 10:40～12:10

大学 PC で、ご自身のテーマの文献検索を行います

【お申込み QR コード】



【お問い合わせ】
豊橋創造大学 看護学研修センター
〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下 20-1
r.kango-kensyu@sozo.ac.jp
研究支援事業担当：桂川



■ 看護セミナー（教員、一般）（2025年度新規）

担当：蒔田寛子、桂川純子、山本義昭

1) 研修目的

看護学科教員が取り組んでいる研究を踏まえたセミナーを開催し、本学教員の研究の質向上および看護の質向上に貢献する。

2) セミナー実施状況

(1) 第一回セミナー

日時 2005年9月27日(土)13:00~14:30 (受付12:30~)

場所 A12 (受講者数によりA21から変更)

対象者 看護師、助産師、保健師など

参加者 7名

参加費 無料

受付 井上先生

内容 講座1：在留外国人への支援と異文化間看護能力 (45分)

(リトル 奈々重 先生 (宮内 志保 先生から変更))

概要：外国人住民数の多い東三河地域では、様々な文化的背景を持つ対象者への看護がより求められています。本講座では、異文化理解や実践的なケアについて紹介します。

講座2：災害時における被災地の看護師に必要なセルフケアについて (45分)

(笹木 りゆこ 先生)

概要：災害時、被災した看護師は、心とともに身体のセルフケアが大切です。災害時期に応じた看護師のセルフケアに必要な平常時の取り組みについてご紹介します。

研修会参加者アンケート結果

第一回セミナー：アンケート回収数7件 (100%)

1. 講座内容について

1.1 「講座1」は、あなたの生活に役立つと感じましたか

はい100%、いいえ・わからない 各0%

1.2 「講座1」の内容はわかりやすかったですか

とてもわかりやすかった71.4%、わかりやすかった28.6%、

どちらともいえない・わかりにくかった・とてもわかりにくかった 各0%

1.3 「講座2」は、あなたの生活に役立つと感じましたか

はい85.7%、いいえ・わからない各0%、無回答14.3%

1.4 「講座2」の内容はわかりやすかったですか

とてもわかりやすかった71.4%、わかりやすかった28.6%、

どちらともいえない・わかりにくかった・とてもわかりにくかった 各0%

1.5 講座の内容について、特に良かった点や改善してほしい点があれば教えてください。

「講座1」:

・異文化看護の必要性がとてもよくわかった。日ごろ、在留外国人が増えていると実感していた

が、こんなに増えているとは思わなかった。

- ・異文化と一言で言っても、生活や価値観、行動、習慣など考えるきっかけになった。
- ・実際の現場における具体的介入方法がもっと聞きたかったです。
- ・国際看護はあまりなじみのないものだなという印象が変わった。とても身近にあるもので、異文化について考えることは、ますます必須になることが分かった。その際、自分の文化もバイアスになるものだという事には、はっとした。意識をしたことがあまりなかった内容なのでおもしろかった。
- ・具体例があって大変分かりやすかった。
- ・文化の違いについて。痛みの表現についてや、海外は無痛が当たり前など。薬のカプセルにゼラチン豚エキスが入っていることを知れた。

「講座2」:

- ・災害時のためにできる準備をしていく必要がある。
- ・災害の周期も医療同様の流れで言われていることや、被災地看護師のメンタルなどメディアで聞くことよりくわしく聞けて勉強になった。
- ・少ない(限られた)水の中でできる対策が知れて良かったです。
- ・今、災害が多くおこっている時なので、より興味を引く内容(テーマ)だった。実際の写真や物もあったので、イメージがしやすかった。また、実際の災害派遣に行った人の話もあり、リアリティーがあり、関心が深まった。日常生活に生かせる知識もあっておもしろかった。
- ・災害でのトイレの現状を知れた。圧縮トイレの作り方、キャップ一杯の水、すごいと思いました。

2. 講座の構成について

2.1 講座の時間(40分)は適切でしたか

ちょうどよかった 85.7%、短すぎた・長すぎた各 0%、無回答 14.3%

3. その他

3.1 今後の講座に参加する意向についてお聞かせください

ぜひ参加したい 14.3%、講座の内容による 71.4%、参加しない 0%、無回答 14.3%

3.2 研修内容について、今後取り上げてほしいトピックがあれば教えてください(自由記述)

- ・技能実習生との関わり方
- ・外国人に対する、市の医療対策や実際の介入紹介
- ・異文化間看護能力をどのように現職看護師につけていくのか

3.3 その他に感想などがあれば自由にご記入ください(自由記述)

- ・病院事務職として働いており、両講座において対応を検討している内容にて、とても勉強になると共に参考にさせていただきたいと思いました。
- ・当院は外国の介護士が複数名います。国による背景の違いを感じる事が度々あり、関わり方に戸惑うこともあります。又、文化の違いの視点では、若い世代の人との考え方の違いもあり「異文化」として捉え、相手を理解しておくことが必要と改めて理解しました。災害看護では、少し違うかもしれませんが、コロナの時の一期クラスターの時、私自身が体が動かなくなってしまった時のことを思い出しました。あとで考えると脱水だったんだと思いますが、その時は夢中だったので自分自身へのセルフケアが足りなかったと反省しました。両講座もわかりやすく参考

になりました。ありがとうございました。

- ・日本にいて、日本の中で生活していると、異文化の視点で物事を考える機会があまりなかったです。他の国の具体的な事例を聞き、はっとしたことが多くあったのでおもしろかったです。異文化、外国人の考え方をまず知ってみようと思いました。その時、自分の考えや文化も同時に考えたいです。「本人にとって最善の看護をする」という目標は同じだと思うので、アプローチの仕方について考えてみたいと思います。また、災害看護については、発生時に短期支援をすることはあっても長期的にかかわることはないの、長い目でみたかかわりが必要だということを改めて感じました。その時、医療者も必死で一生懸命であるため、自身の体調や心のことに気がつかないということも改めて知っておかないといけないことだと思いました。`医療者もストレスにさらされる、ということに自覚し、セルフケアを意識したいと思いました。そのためにも、今できる準備から取り組みたいなと思いました。

(2)第二回セミナー

日時 2006年2月21日(土)13:00~14:30 (受付12:30~)

場所 A21

対象者 一般市民

参加者 13名

参加費 無料

受付 都築先生

内容 講座1：今日から実践！ぐっすり眠れるためのコツ (45分)

(山本 義昭 先生)

概要：年齢とともに変化する睡眠について、日々の暮らしを振り返りながら一緒に学び、心地よく眠るためのヒントや工夫を見つけていきましょう。

講座2：脳健康を守ろう：軽度認知障害の早期発見と予防のポイント (45分)

(三村 絵美 先生)

概要：認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)の早期発見につながるスクリーニング方法と認知症の予防方法についてご紹介します。

研修会参加者アンケート結果

第二回セミナー：アンケート回収数 13件(100%)

1. 講座内容について

1.1 「講座1」は、あなたの生活に役立つと感じましたか

はい92%、いいえ8%、わからない0%

1.2 「講座1」の内容はわかりやすかったですか

とてもわかりやすかった50.0%、わかりやすかった43.0%、

どちらともいえない7%、わかりにくかった・とてもわかりにくかった 各0%

1.3 「講座2」は、あなたの生活に役立つと感じましたか

はい92.0%、いいえ8%、わからない各0%

1.4 「講座2」の内容はわかりやすかったですか

とてもわかりやすかった 77.0%、わかりやすかった 23.0%、

どちらともいえない・わかりにくかった・とてもわかりにくかった 各 0%

1.5 講座の内容について、特に良かった点や改善してほしい点があれば教えてください。

「講座1」:

- ・リラクゼーション法、深睡眠 参考になりました。
- ・睡眠（効果的）に関わるエビデンスを再確認できた。
- ・ある程度知っている情報だったので、もう少し新しい情報が欲しかった。
- ・スライドに合わせて資料も用意いただき、自宅でももう一度確認できるので、有難く思いました。
- ・一般的な話が多かったようで、何か特化したお話が聞けると良かった。
- ・睡眠のコツをわかりやすく説明されていたのがよかった。
- ・病院→一般家庭にアレンジした内容にすれば、さらに良い。(環境の改善、室温、暗さ)
- ・睡眠は”治す”のではなく、人が本来持つ治る力を引き出す。
- ・睡眠が脳に役立ち、その取り方(環境・食事)
- ・チェックリストそれぞれの説明が詳しくてわかりやすかったです。受診する必要性の判断について、(不眠の)詳しく知りたいです。
- ・全体的に分かりやすく理解することができました。今夜から、できるところから改善していこうと思っています。
- ・普段の生活から取り入れられる睡眠法を教わるのが出来てとても有意義だった。

「講座2」:

- ・MCI 検査、MCI スクリーニング はじめて知りました
- ・MCI のうちに受診行動を取るよう受診を行いたいと思う
- ・親しみある話し方で、聞きやすかった。最新の多因子介入について、もう少し詳しく聞きたかった。
- ・耳の痛いお話もありましたが、認知症予防に取り組んでいこうと思いました。
- ・知らない話が多く勉強になりました。
- ・MCI の進行予防、14 のリスク因子は大変有益でした。
- ・MCI プラスを知ることができた。MCI ハンドブック(ウェブ版)
- ・危険因子の割合は、気を付けるべきことが明確に分かりやすかったです。健康について努力している人ほど、一人で何とかしようとする(よくない意味で)は、納得です。
- ・MCI という言葉は初めて知ったが、今回の講義でよく理解できました。
- ・他人事ではないリスクなので予防法を参考にしてみたいと思った。

2. 講座の構成について

2.1 講座の時間(40分)は適切でしたか

ちょうどよかった 92.0%、短すぎた 8%、長すぎた各 0%

3. その他

3.1 今後の講座に参加する意向についてお聞かせください

ぜひ参加したい 50.0%、講座の内容による 50.0%、参加しない 0%

3.2 研修内容について、今後取り上げてほしいトピックがあれば教えてください（自由記述）

- ・質問時間がもう少しあると良いかな。最近、バラエティーを含めメディアも取り上げられてきている。NHKの朝の5時半過ぎの今日の健康（約7分）でも睡眠が取り上げられていた。
- ・自律神経の病気との関係
- ・病院のかかり方：どんな科にかかればいいのか、困ったらどこに相談するといいか、ドクターショッピングとセカンドオピニオンの違いなど

3.3 その他に感想などがあれば自由にご記入ください（自由記述）

- ・はじめて参加させていただきました。貴重なご講演ありがとうございました。具体例が多く大変理解しやすく”生活を見直す”機会になりました。ありがとうございました。講義の組み合わせ非常に良かったです。
- ・今後もいろいろな講座を期待します。
- ・今後も、こうした健康の講座あるとでたい。
- ・午後の講座の開始時間。13時30分が望ましい。（13時は食事時間と移動時間を考えると厳しいです。）
- ・本日はありがとうございました。初めて参加させて頂きましたが、もっと多くの人に知ってもらいたい講座だと思います。近くの市民館などでも参加できるといいです（もうあるようでしたらすみません）
- ・両講座とも、とても良かったです。ありがとうございました。

第二回セミナー参加申し込み時に確認したこと

<何を見て参加申し込みしたのか>

チラシ10名、新聞記事4名、学内メール1名、直接電話1名

3) 活動内容

(1) 参加者募集

<第一回>実習指導に関する研修会と直接実習施設へのチラシ配布をして募集した。

<第二回>地域連携・広報センターへ依頼して、豊橋教育委員会など地域の方へ募集した。また、学内の在学生に対してユニパにて募集した。

(2) セミナー準備

セミナーの時期と対象、セミナー講師選定をおこない9月と2月の開催とした。また、9月は看護師・助産師を対象とし、2月は一般市民を対象と設定した。セミナー講師として、看護学科の教員から募集を募り、9月2名、2月2名の教員にお願いした。また、セミナー開始の際に手伝ってもらえる教員を各1名ずつ依頼した。

セミナーのチラシを作成し、QRコードから読み取って参加できるようGoogleフォームを作成した。また、セミナー開催時のために会場（大学の部屋）の予約をした。

4) 今後の課題

①開催頻度と運営体制について

年2回の開催は、準備・広報にかかる運営担当の負担が大きく、集客面でも課題が残った。次年度は年1回に集約することで、1回あたりの企画の密度を高め、より効率的な運営を目指す。

②広報活動について

新聞社からの助言を活かし、ターゲットの目を引く「タイトルの強調」を行う。また、初めての方でも申し込みやすいよう、講師の顔写真や過去のセミナー風景を掲載して、会場の雰囲気をつかりやすく伝える工夫をする。集客不足を解消するため、より早い段階から参加者への周知を開始し、参加検討期間を十分に確保する。既存の配布ルートに加え、アンケートで要望のあった「地域の市民館」へのアプローチや、SNS・HP、東海日日新聞での情報を発信して認知度を高める。

③開催設定と内容の検討

アンケートにて「13時は昼食や移動で慌ただしい」との意見があった。次年度は、参加者が足を運びやすい13時30分開始への変更を検討する。参加者の関心が高いトピックを講師と共有しセミナー内容を検討していく。専門家から直接学びたいという意欲が高い参加者が多いため、一方的な講義に留まらず、双方向のコミュニケーションが取れる時間を十分に設定する。市民向けの配布資料は、長編綴じではなく、短編綴じとして配布する。

④アンケート内容の検討

アンケート内容に含めたい質問は、広報につなげるために「どこに住んでるのか」を項目に入れる。

※参考資料

Care & Idea 豊橋創造大学

看護学研修センター 看護セミナー

2025年9月27日(土) 13:00開始 12:30受付
豊橋創造大学 A21教室

【セッション1】 教員：宮内 志歩
在留外国人への支援と異文化間理解能力
概要：外国人住民数の多い東三河地域では、様々な文化的背景を持つ対象者への看護がより求められています。本講座では、異文化理解や実践的なケアについて紹介します。

【セッション2】 教員：笹木 りゆこ
災害時における被災地の看護師に必要なセルフケアについて
概要：災害時、被災した看護師は、心とともに身体のセルフケアが大切です。災害時期に応じた看護師のセルフケアに必要な平常時の取り組みについてご紹介します。

お問い合わせ
豊橋創造大学看護学研修センター 研究支援事業
住所：豊橋市牛川町松下20-1
E-mail：s.kango-kensyu@sozo.ac.jp

申し込みは、QRコードよりお願いします

Care & Idea 豊橋創造大学

看護学研修センター 看護セミナー

一般市民向け **受講無料 定員100名**

2026年2月21日(土) 13:00~ 14:30 12:30受付
会場：豊橋創造大学 A21教室

【セッション1】 教員：山本 義昭
今日から実践！ぐっすり眠るためのコツ
概要：年齢とともに変化する睡眠について、日々の暮らしを振り返りながら一緒に学び、心地よく眠るためのヒントや工夫を見つけていきましょう。

【セッション2】 教員：三村 絵美
脳の健康を守ろう：軽度認知障害の早期発見と予防のポイント
概要：認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)の早期発見につながるスクリーニング方法と認知症の予防方法についてご紹介します。

お問い合わせ
豊橋創造大学看護学研修センター 看護セミナー
住所：豊橋市牛川町松下20-1
E-mail：s.kango-kensyu@sozo.ac.jp

申し込みは、QRコードにてお願いします

・新聞掲載 2026年1月28日(水) 東海日日新聞

看護セミナーで「睡眠」「認知症」

豊橋創造大学看護学研修センター 来月21日開催受講者募集

豊橋創造大学看護学研修センターは、「睡眠」や「認知症」に関する話題を取り上げた「看護セミナー」を2月21日午後1時から午後2時半まで同大で開催する。一般市民を対象に実施され、受講無料。定員は100人。

同大保健医療学部看護学科で高齢者看護学の分野で睡眠障害等を研究する山本義昭助教による「今日から実践！ぐっすり眠るためのコツ」と、老年看護学を専門領域として研究する三村絵美助教による「脳の健康を守る」。

山本助教は、年齢とともに変化する睡眠について日々の暮らしを振り返りながら心地よく眠るためのヒントや工夫を見つけていく。

三村助教は、認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)の早期発見と予防のポイント」の2つのセッションを実施する。

同大の蒔田寛子看護学科長は、「地域の皆さんの健康により貢献できればと考えて、今回初めて一般の方を対象にした看護セミナーを実施します。ぜひご参加ください」と呼びかけた。

受講申し込みは、専用二次元コードから行う。
(吉富恵子)

「」の早期発見につながるスクリーニング方法と認知症の予防方法について紹介する。

同大の蒔田寛子看護学科長は、「地域の皆さんの健康により貢献できればと考えて、今回初めて一般の方を対象にした看護セミナーを実施します。ぜひご参加ください」と呼びかけた。

豊橋創造大学外観

セミナー申し込み用二次元コード



良い睡眠について話す山本義昭助教
(豊橋創造大学で)

「睡眠」と「認知症」をテーマに

豊橋創造大学 看護学研修センター 一般市民を対象にセミナー

地域貢献の一環として豊橋創造大学看護学研修センターは21日、一般市民を対象としたセミナーを開催した。「睡眠」と「認知症」をテーマに、同大保健医療学部看護学科の教員が

講演した。第一部では、脳卒中、睡眠、睡眠衛生教育を専門とする山本義昭助教が「今日から実践！ぐっすり眠るためのコツ」と題して話した。睡眠

の役割、質の良い睡眠、脳卒中と睡眠の関係などについて説明し、ぐっすり眠るためのコツ10項目を挙げた。その上で、「良い睡眠が一番のセルフケア。一つでも実践を」と訴えた。第二部では、老年

看護学を研究する三村綾美助教が「脳の健康を守ろう 軽度認知機能障害(MCI)の早期発見と予防のポイント」について話した。三村助教は「認知症の45%は遅らせた

り軽減できる」とデータを示した。その上でMCIの進行を予防するための方法として、運動・食事・

社会活動・認知トレーニングなどを上げ、「楽しく取り組みましょう」と呼びかけた。同センターは2024年4月に新設され、これまで看護師、

保健師、介護支援専門員等に向けた研修会を開催。一般市民向けセミナーは今回が初めて。
(吉澤恵子)

■ 研究発表会検討会（2025年度新規）

担当：蒔田寛子、桂川純子、山本義昭

1) 研修目的

学会発表前の抄録と発表のブラッシュアップおよび地域の看護の質の向上を目的とする。

<ホームページ上での趣旨>

豊橋創造大学 看護学研修センターでは、看護職の皆さまの研究力向上を目指して「看護研究発表検討会」を開催いたします。

本検討会では、参加者が発表予定の演題について、参加者のみが出席する非公開の場において口頭発表および質疑応答対応の機会を提供し、座長をはじめとする看護学研究者による講評を通じて、発表内容の一層の精査・改善を図ります。また発表終了後には、希望者を対象に抄録内容に関する個別指導を実施し、各自の研究の質的向上を支援いたします。

2) 研修内容

日時 2026年3月7日（土）13時～16時

場所 E棟2階 E21、E22、E23

参加費 2000円（当日会場にて現金でのお支払いで対応）

<研究発表会検討会までのスケジュール>

演題登録期間 2025年10月1日（水）～12月19日（金）

事前参加申し込み期限 2025年12月19日（金）17時

抄録締め切り 2026年2月27日（金）17時

研究発表会検討会（当日のスケジュール）

【第1部】看護学研修センター活動報告（30分程度）

1年間の看護学研修センターの活動内容を、参加者の成果やアンケート結果なども含め報告

【第2部】講演（90分程度）

講演内容：これから研究を始める or 研究をしたことがない方を対象にした内容

講師：本学科教授1名に依頼

【第3部】実践報告・研究紹介（60分程度）

・発表人数 5～6人程度として、1人15分（発表10分+質疑応答5分）

・発表方法 口頭発表

抄録：査読はなしとし、抄録のみ提出してもらうこととなった。抄録はA4 1枚とし、看護学研究Ⅱで使用されているものを使用する。抄録の指導については発表終了後に希望者に座長が個別指導を行う。

3) 活動内容

(1) 参加者募集

- ・看護学科主催の「実習指導者に関する研修会」（2025年7月7日）に参加している臨地実習施設に対して、チラシを渡した。また、各領域で実習に伺う際にチラシをもって参加依頼をした。
- ・参加申し込みにはGoogle Formsを利用し、申込期間は2025年12月19日とした。

4) セミナー実施状況

実習施設などにチラシをもって広報したが、演題のエントリーはなかった。そのため、研究発表会検討会メンバーで話し合い今年度の開催を中止とした。

5) 今後の課題

本企画は、学会発表前の抄録および発表内容のブラッシュアップを目的として実施を計画したが、近隣医療機関においては看護研究が病院単位で実施・発表されることが多く、外部の検討会を活用することが十分に浸透していなかった可能性が考えられる。

また、開催時期が3月であったことから、各施設の研究進行状況との間に時期的なミスマッチが生じていたと考えられる。

さらに、本検討会の「少人数での発表練習および個別指導」という趣旨や、完成前の研究でも参加可能である点について十分に伝わっていなかった可能性があり、参加への広報が課題として挙げられる。

今後は、地域における看護研究の実施状況や発表形態を踏まえた対象者設定の見直しを行うとともに、開催時期の再検討、企画目的や参加メリットがより明確に伝わる広報方法の工夫を行う必要がある。

※参考資料

豊橋創造大学 看護学研修センター

“こんなことでいいのかな”が“いい研究”に育ちます

研究発表検討会



開催日: 2026年3月7日(土) 13:00~16:00 (受付12:30)

- 学会発表の前に、安心して相談できる場があります。
- 研究の質と発信力を高めるステップとして、“伝える力”を育てましょう。

● 演題登録期間: 2025年10月1日~12月19日
● 当日参加可能
● 参加費: ¥2,000

お申込み・お問い合わせはWebで

豊橋創造大学 看護学研修センター 研究支援事業
住所: 豊橋市牛川町松下20-1
メールアドレス: p.kango-kensyu@sozo.ac.jp
お申し込みは、QRコードよりお願いします。



Care & Idea
豊橋創造大学

3. 看護実践質向上事業

■ 訪問看護ステーション研修

担当：蒔田寛子、笹木りゆこ、井上直子

1) 研修目的

社会の変化を背景に、医療は病院医療中心から在宅医療中心へとシフトしている。急性期の病院では退院調整、退院支援、多職種連携が重要になってきており、取り組まれているが、在宅医療の実際を経験する機会は少ない。そこで、病気・障害をもちながらも自宅で療養生活している対象者の実態と、療養生活支援の専門職としての看護の役割について、訪問看護の研修を通して学び、視野を広げることを目的に本研修を設定した。

2) 研修内容

研修日程：2025年9月～12月のうち、2日間連続した平日8時30分～17時00分

研修場所

- コープあいち福祉サービス豊橋北訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーション はまな
- 穂の国訪問看護ステーションみゆき
- 訪問看護ステーション Cocolo (2025年度より新規)

対象者：看護職免許を有する者（経験は問わない）

参加費：無料

研修構成

2日間、訪問看護ステーションの訪問看護師と同行訪問を行い、毎日「訪問看護記録用紙」に学びと感想を記録し、施設担当者に提出する。研修終了後には「訪問看護研修報告書」を本センター及び訪問看護ステーションに提出する。

3) 活動内容

(1) 参加者募集

- ・2025年6月に看護学科臨地実習病院に対して、メールで訪問看護ステーション研修の案内および参加者募集案内を行った。
- ・参加者の申し込みは、専用申込書へ記載したうえで返信を受ける方法とし、申し込み期限は2025年7月30日とした。
- ・看護学科教員への研修案内は、7-8月に行った。

(2) 研修準備

訪問看護ステーションと研修生の日程等の調整を以下のスケジュールで行った。

日程	調整内容	
	病院	ステーション
3月		協力依頼
3月		協力依頼
5月	研修申し込み募集告知	研修詳細説明・受け入れ体制確認
6月	研修生募集連絡（期日～7/30） 訪問看護ステーション研修生募集案内、 訪問看護ステーション概要表、 訪問看護ステーション日程調整表の送付	受け入れ日程問い合わせ
6月	申し込み受け付け（～7/31）	
7月	看護学科教員への研修案内・募集	
8月	研修生への諸連絡 ・研修先、日程の連絡 ・誓約書、誓約書見本、記録用紙、報告書の送付	研修先、日程の選定後、研修日程連絡
9月	誓約書の未提出、事前連絡がない研修生施設への連絡	研修開始
10月	研修報告書の受け取り	研修生報告書送付
12月	研修報告書の受け取り	研修終了、研修報告書の送付
1月	研修報告書の未提出者への対応 研修報告書の受け取り 今年度の研修協力の御礼連絡	研修生報告書送付
2月		次年度協力依頼

(3) 研修役割担当

訪問看護ステーション研修受け入れ調整：蒔田寛子

訪問看護ステーションと研修生の日程調整：井上直子、笹木りゆこ

研修生報告書取りまとめ：井上直子、笹木りゆこ

3) 研修実施状況

研修は9月から12月にかけて4つの訪問看護ステーションで行われ、参加申し込みは9名だった。1名がインフルエンザで研修を中止したため、研修は8名が行った。研修生の所属は、病院5名、大学4名だった。看護職としての経験年数は7～34年で8名の研修生が訪問看護の経験がなかった。

訪問看護ステーション別 研修実施状況概要

訪問看護ステーション名	研修月	研修生所属（人数）
コープあいち福祉サービス豊橋北 訪問看護ステーション	9月 11月（研修中止）	赤岩病院（1） 岡崎市民病院（1）
訪問看護ステーション はまな	12月	豊橋創造大学（1）
穂の国訪問看護ステーションみゆき	9月 11月	豊橋創造大学（1） 豊橋市民病院（2）
訪問看護ステーション Coccolo	9月 10月・11月	豊橋創造大学（1） 豊橋市民病院（2）

4) 訪問看護研修報告書内容

研修後に提出された報告書によると、全ての研修生が本研修を有意義であったと評価し、今後の自分の看護実践に生かしていく決意を述べていた。また、訪問事例に関心を寄せた報告も多くみられた。以下に研修生の報告内容を一部抜粋した。

- ・ 利用者の治療や看護だけではなく、家族にとっての生活も見据えた介護支援が不可欠であると学んだ。
- ・ 訪問看護は技術だけでなく、生活支援・家族支援・環境調整・リスク管理等、多面的な役割を担う総合力が求められる領域であることを強く感じた。今後は、この研修で得た知識と視点を現場で活かし、患者が在宅に退院した後のことも見据え、安全そして安心して生活が出来るように自身も地域包括の一員として、より質の高い看護を提供していきたいと考える。
- ・ 病院と在宅看護の違いが意識でき、患者の退院後の生活を理解するためのコミュニケーションと在宅で活用できる資源紹介の必要性を感じた。

5) 今後の課題

昨年度の課題に対処して実施し、今年度は課題なく終了できたと考える。

今年度は、研修生を大学所属の看護職に広げることが課題としていた。そのため、7月から大学教員に募集案内を行い、4名の研修生が参加した。すべての研修生が、本研修を自分の看護実践や教育に活用できると評価していた。今後も病院だけでなく、大学に向けて研修生募集を行う。

訪問看護研修記録用紙の様式の提出について、研修生からの問い合わせがあった。様式1は、研修計画に活用する目的があり、学びの記載は報告書に集約するように、次年度は、様式1のレイアウトを見直す。

昨年度の事務局の課題は、研修生の提出物（研修前の誓約書、研修後の訪問看護研修報告書）遅れへの対応であった。今年度は、事前の丁寧な連絡、遅れが見られた場合のリマインドを行い、大幅な提出遅れはなかった。

■ 家族支援研修会

担当：蔭田寛子、山口直己、林美佐

1) 研修目的

本研修は、家族支援に関する実践的な知識と技術を深めることを目的とする。渡辺式家族アセスメント／支援モデルを用いた事例検討を通じて、対象者の家族関係や支援の必要性を分析し、適切な介入方法を学ぶ。また、多職種連携の重要性を理解し、地域包括ケアシステムの推進に向けた連携の在り方を探ることを目的とする。研修では、事例検討に加え、災害時の対策、新たな看護技術の方向性、感染症予防といったトピックスについての学習を行い、在宅看護を中心とした最新の知見を得る機会とする。多職種との意見交換を通じて、異なる視点を取り入れながら、より質の高い家族支援を実践できることを目指す。

2) 研修会準備

(1) 参加者募集

2025年5月に看護学科臨地実習施設に対して、メール（一部郵送）で家族事例研修会の案内文とポスターを送付した。参加者の申し込み方法はGoogleフォームとした。電話での問い合わせもあった。

(2) 研修会準備

- ・本研修会が、主任介護支援専門員更新研修受講要件に該当するよう申請し、承認を得た。
- ・各回の研修会で事例検討に使用する事例提供を依頼した。

3) 研修内容

開催場所：豊橋創造大学 E22 教室

対象者：看護師、保健師、介護支援専門員等

定員：各回 40 名 参加費：500 円／回

《第4回家族支援研修会》

2025年6月14日（土）13:00～16:15

講義：「渡辺式家族アセスメント/支援モデル」ワークシートの説明（担当：山口）

事例検討：渡辺式家族アセスメント／支援モデルを活用した事例分析

困難事例に対する支援の在り方の検討

（ファシリテーター：蔭田・山口・林）

トピックス講義：2040年問題と地域医療構想（担当：蔭田）

〈参加者の概要〉

参加者数 19 名（15 名）（ ）内リピーター

〈アンケート結果〉

事例検討

- ・ 私が直接かかわっている事例でしたが、客観的に考えることができました。新しい気づきもありました。ありがとうございました。（只、事例についてわかってしまうこともあるため、私が話してしまうことで、他の皆さんに研修の妨げになるところもあったのでは、と反省しています。）

- 実際の事例に関わった方もいっしょに、具体的なことや思いを聞いたため、普通のペーパー事例とは少し異なり面白かった。
- 初めて参加させて頂き、今回のアセスメント方法は勉強になりました。
- 改めて考え方の整理が出来ました。
- 事例検討の実際の取り組み方が分かった。
- 小児支援の事例ですが、色々な意味で驚愕でした。
- 普段関わらない、小児の事例での話し合いでした。勉強になりました。
- 実際に困った事例で使用できるから。
- 今回で3回目の受講となるが、回数を重ねる度にアセスメントの仕方の理解が深まった。
- わかりやすく今後の役に立てられる。
- 勉強になりました。
- 渡辺式モデルへの苦手意識が減りました。
- 現場で活用してみたいと思います。
- 困難な事例であったがとても勉強させていただきました。
とても良かった 66.7% 良かった 27.7%

トピックス 2040年問題と地域医療構想

- 今まであまり意識をしていなかったため、とても勉強になりました。
- 今後の問題に焦点を当てた内容で、今後自分が考えて活動していかなければいけない問題だと感じた。
- 2025年問題に続き高齢社会の問題の深刻さが益々広がって行くと思いました。
- 現実に取り組んでいる内容であり、参考になりました。
- 自分たちの取り組みの背景がよく分かった。
- 二人合わせて189才のご夫婦の希望を叶えた話が感動しました。
- 2040年問題は、本当に早期に対応しなくてはならないが、簡単ではないです。
- みんなで考える必要があります。
- 今後の地域医療について学ぶことが出来たから。
- 地域の力を活用し家族の変化に対応して行くことは理解出来るが、個人主義の昨今、中々資源開発に繋がらない。悩ましい所です。
- 本当の在宅看護は何かを考えさせられた。
- 2040年の平均寿命を知りおどろきました。
- 視野が広がりました。
- 将来的なビジョンについて示唆があった。
- 健康な高齢者にならないと意識させられた。
とても良かった 66.7% 良かった 33.3%

今後取り上げて欲しい研修内容

- 制度によって訪問看護のサービス提供の違いなど。
- 介護保険の事例であり且つ家族は居て血縁は深いやや疎遠な事例。
- 在宅における緩和ケアの事例に、対してのケアマネジャーの調整の、実際と、悩み。

- 家族支援の研修は続けて受講したいと思います。研修進行方法の提案ですが、初回受講者と複数回受講者の日程を分けてはどうかと思います。初回受講者は渡辺式アセスメントの使用 방법에時間を費やしてはと思います。私も初回の受講は理解が難しかったので・・・。

《第5回家族支援研修会》

2025年11月22日(土) 13:00~16:15

講義：「渡辺式家族アセスメント/支援モデル」ワークシートの説明(担当：蒔田)

事例検討：渡辺式家族アセスメント/支援モデルを活用した事例分析

困難事例に対する支援の在り方の検討

(ファシリテーター：蒔田・笹木・林)

トピックス講義：災害時の対応 Part2(担当：笹木)

〈参加者の概要〉

参加者数 13名(9名) ()内リピーター 今年度の延べ人数：32名

以下第4回・5回の合計

職種(アンケート結果より) n=31(4・5回合計)

ケアマネジャー 19名(56%) 看護師 12名(38%) 保健師 1名(3%) 相談支援専門員 1名(3%)

所属機関(アンケート結果より) n=31 4・5回合計

病院 4名(14%) 訪問看護ステーション 6名(20%) 高齢者施設 2名(7%)

地域包括支援センター 1名(3%) 相談支援事業所 1名(3%)

居宅介護支援事業所 15名(50%) その他 1名(3%)

〈アンケート結果〉

事例検討

- 毎回、話し合いに学びがあります、
- 膀胱癌末期と記載があると、もっと良かった
- 多職種の意見を聞くことが出来たため
- 看護師の方からケア方法や専門的な知識を得ることができ、今後にとっても役立ちます。
- 家族支援が詳しくわかった。
- 活発な話し合いで、ストレスなく参加できました
- 関係性やアプローチの仕方のアセスメントについて整理でき理解できました。
- 進めていくうちに解決方法が見出されていくことが感じられて良かった。
- 事例が偶然、これからサービスを開始する方と同じ既往歴でしたので具体的な注意点やサービスについてきくこおかぎできた
- 初めて家族支援での事例だったので、考え方も新鮮で面白かった。
- 活発に話し合いができました。ツールを使うことで困難事例を整理することができそうです。今後の現場に活かしたいです。
- 良くある事例で良かった

とても良かった 92.0% 良かった 8.0%

トピックス 災害時の対応 Part2

- 災害の事を改めて考えるきっかけになりました。
- 参考になる
- 今後の参考にしたい
- 自助の割合の高さ、必要物品の再確認ができました。
- 自助で備える事の大切さを知った
- 自助 70%！職場での被災も検討します
- 職場での自身の備蓄について考えた事がなく勉強になりました。
- 職場での個人的な備蓄は考えたことはなかったので、良いきっかけとなった。
- 被災する前に平時より用意しておくものが具体的に聴けた
- 災害の自助も再確認できて良かった。
- 職場での対策をしっかり考えたいと思う”
- すぐに使える情報が沢山ありました。
- 万が一のための心構えができた

とても良かった 92.0% 良かった 8.0%

今後取り上げて欲しい研修内容

- ケアにおけるプライバシーや尊厳の確保について。
- 困難事例に対しての研修
- 訪問看護の魅力
- 家族看護は継続していただきたいです。
- 疾病に対する家族の理解

4) 次年度に向けての課題

(1) 参加者・会場

- 2024 年度の課題を踏まえ、各回の定員を 20 名とした。参加者は毎回 20 名以内であり、募集定員は 20 名がよいと思われる。参加者は新規参加者よりもリピーターが多かった。
- 会場が D11 教室から E22 教室に変更して実施した。準備・運営のやりやすさ、駐車場から会場までの距離が短い、トイレや自販機が近いことから、今後も E22 教室での実施がよいと思われる。

(2) 募集方法

- 研修会ごとに 受付期間を設けて募集した。直前のキャンセルが数名あったものの大きな問題はなかった。今後もこの方法を継続したい。
- スマホを持っておらず QR コードからの申し込みができない方のために、電話での対応もできるようチラシに庶務課の電話番号を記載した。その結果、想定外の電話での問い合わせが多くあり事務局に対応していただくケースが多くあった。急を要する場合など電話での対応が便利な場合もあるため、チラシに掲載する電話番号については検討する必要がある。

(3) トピックスについて

参加者の職種に幅があることから、トピックスの内容を絞ることが難しい。また、参加者はリピーター

が多いことから、同じ内容のトピックスを実施することはできない。以上の状況を踏まえ、研修の内容およびトピックス実施の可否について検討する必要がある。

(4) 事例検討について

参加者の多くはリピーターであることから、研修会のレベル（初級、中級、上級）を設定し段階にわけ実施することも必要である。

<研修会の様子>



豊橋創造大学看護学研修センター研修会

家族支援の事例研修会

～ケアの質向上を目指した病院と地域の連携の在り方～

- 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使用した事例検討会を行います。モデルをもとに事象を分析し支援に生かすように努めることで、困難な事例との関係が変化する経験をしてきました。様々な職種とともに検討することで、視野が広がり、とても参考になります。
- 地域包括ケアシステムを推進していく上で多職種連携は欠かせません。事例検討を通して、互いをよく知り、保健・医療・福祉関係者の連携を進めていきましょう。事例検討とトピックスについての意見交換会です。

※本研修は、主任介護支援専門員更新研修受講要件に該当し修了証が発行されます。

対 象：看護師、保健師、介護支援専門員等

場 所：豊橋創造大学 D11教室

定 員：20名/回（定員なり次第締め切らせていただきます）

参加費：500円/回（当日現金による支払い）

第1回

2025年6月14日(土) 13:00～16:15
申込期間：2025年4月7日～6月6日

①事例検討
講師：山口 直己（豊橋創造大学保健医療学部看護学科 基礎看護学 准教授）

②トピックス「2040年問題と地域医療構想」
講師：蒔田 寛子（豊橋創造大学保健医療学部看護学科 在宅看護学 教授）

第2回

2025年11月22日(土) 13:00～16:15
申込期間：2025年9月22日～11月14日


①事例検討
講師：蒔田 寛子（豊橋創造大学保健医療学部看護学科 在宅看護学 教授）

②トピックス「災害時の対策 part2」
講師：笹木 りゅこ（豊橋創造大学保健医療学部看護学科 基礎看護学 講師）

お申込み
お問い合わせ

豊橋創造大学看護学研修センター内
家族支援研修会事業担当：山口、林
E-mail : k-kango@sozo.ac.jp

【お申し込み方法】
右のQRコードより
お申込みください



患者とのかかわり方など理解深める

豊橋創造大看護学研修センター 家族支援の事例検討会

東三河を中心に、地域の看護師、保健師、介護支援専門員等を対象にした研修会を実施している

「豊橋創造大学看護学研修センター」で、今年度第1回の「家族支援の事例検討会」が14日、同大で開催された。市内外から19人の看護師ら

が、日本で増えつつある家族形態と問題点を上げ、「医療の現場で働いている私たちがにも影響をもたらしている」と述べ、「事例検討は、実際の患者や家族とのかか

わりの中で困難を感じた時に支援の糸口を見つけるための有効な方法である」と話した。

事例検討会では、援助者が家族の関わりを理解するためのツール「渡辺式家族アセスメント」支援モデル」を使用して、グループワークを行い、家族支援について理解を深めた。



グループワークによる事例検討の様子 (豊橋創造大学で)

参加者らは、「事例検討の実際の取り組み方が分かった」、「現場で活用してみたい」などと感想を述べた。

また、「2040年問題と地域医療構想」をテーマに、同学科長の蒔田寛子教授によるミニ講義が行われ、今後の地域医療について学んだ。次回は、11月22日に実施予定。

(吉島恵子)

4. 卒業生継続教育事業

担当：河合洋子、山本義昭

■ 卒業生支援研修会（2025年度新規）

1) 研修会目的

本研修会は、卒業生の継続的な学びとキャリア形成を支援することを目的とする。同窓会やキャリアセンターと協働し、卒業生が年に一度大学に集い、在校生や教員と交流する機会を提供することで、情報交換や人的ネットワークの構築を促進する。また、進学や転職に関する相談支援を行い、卒業生が自身のキャリアパスを明確にし、看護職としての成長を継続できるよう支援する。さらに、最新の看護知識や医療現場の動向に関する情報提供を通じて、実践力の向上を図る場とする。

2) 活動内容

(1) 看護学科同窓会『Re:創造』の開催について

第1回看護学科同窓会『Re:創造』を10月25日（土）午後、保健師選択コースや学生委員、キャリアセンターなど協力の下に開催した。

(2) 概要

実施日：10月25日（土）13:15～16:00 ※創造祭初日

場 所：E棟3階 E34教室

共 催：キャリアセンター

目 的：卒業生・在学生との交流、キャリア形成支援、相談および情報提供

参加者：32名（看護師のみ：4名、保健師：24名、在学生：4名）

（第1部）13:15-13:20

開会 センター長挨拶

13:20-13:45

ミニセミナー 講師：河合洋子

「遠隔でつながる学びの継続 ～テレロボを使って～」

（第2部）13:45-15:55

情報交換会（自己紹介・近況報告）、歓談

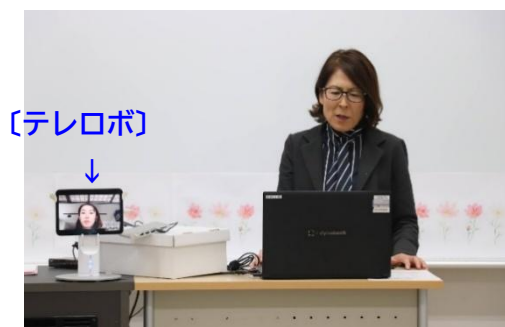
15:55-16:00

閉会

3) 実施状況

①第1部 ミニセミナー 司会：藤井先生

- ・講演で使用する機器の接続についてアプリケーションの不具合があり、開始時間が遅れた。
- ・第1部からの参加者が少なかった（9名程度）。



↑ 神戸から遠隔により「テレロボ」を操作している様子

②第2部 情報交換会 司会：小俣先生

- ・参加予定者の約半数の参加を確認し、自己紹介（氏名、何期生、職場等近況報告）を行った。
- ・キッズコーナーでは、幼児と親がくつろいで話すことができた（4、5名の卒業生が連れてきた）。
- ・終了時間は15時を予定していたが、参加者が分散して訪れたこと、情報交換や交流を求めていたため16時まで延長とした。
- ・在學生（3年、保健師コース）の参加もあり、卒業生に対して質問をしていた。「参加して満足した」という感想を得た。



4) 次年度の向けての課題

(1) スケジュールと構成について：

- ・第1部のミニセミナーは、30分程度で適切であった。テーマについて、初回は講師（小児看護学）に任されたが、アンケート等を活用して卒業生のニーズを把握することも検討する。
- ・第2部の情報交換会は、参加者の交流を目的とするため2時間程度が適切かと思われる。卒業生間・在學生との情報交換、病院・保健センター・職場としての大学など仕事等日頃の悩みや自身のキャリアについての相談も行われていた。大学院への進学相談はなかったが、終了後にキャリアセンターに助産学専攻への進学相談をした卒業生が1名いた。

(2) 参加者と連絡方法について：

- ・卒業生の参加は、32名（看護師のみ：4名、保健師：24名、在學生：4名）であった。直接誘った際「知っている教員が少ない」という意見があったため、教員の参加を増やすことは重要と考える。また、セミナーの内容の検討・講師選択も検討する必要がある。
- ・在學生（保健師課程）が参加したが、卒業生と交流して満足していた。在學生と卒業生の交流の機会を持つことはキャリア形成のために効果があるためすすめていく。
- ・同窓会のメーリングリストから2回メール配信した（8月25日、9月30日）が、「8月では連絡が遅い」という意見があった。創造祭の1日目に実施するということを定着、周知する必要がある。今後は、メールの他にHPにチラシや同窓会の様子を載せるなど「行ってみたい」と思ってもらえるように工夫する。また、在學生にも同窓会の様子を在学中に伝え、同窓会について認知させる。



※参考資料

第1回 看護学科同窓会 「Re:創造」

看護学研修センターでは、卒業生の継続教育事業の一環として同窓会やキャリアセンターと協働してセミナー、情報提供、各種相談など、卒業生への支援を行っています。

『Re:創造』は、卒業後も再び大学に集うという意味を込めて同窓会の名前としました。年1回大学に集まり、卒業した先輩・後輩と交流して情報交換したり、進学・転職などに関わる相談など、看護学科の仲間とネットワークを広げる場としています。

卒業生の皆さん、ぜひご参加ください。

日 時：2025年10月25日（土）13：00～15：00（創造祭初日）

場 所：E棟3階34教室

【プログラム】~~~~~

- 13：00～13：15 開会
- 13：15～13：45 ミニセミナー 講師：河合洋子
「遠隔でつながる学びの継続 ～テレロボを使って～」
- 13：45～14：55 情報交換会（自己紹介・近況報告）、歓談
- 14：55～15：00 閉会
- 15：00～ 自由解散

◆問い合わせ先

豊橋創造大学看護学研修センター 卒業生継続教育事業
住所：豊橋市牛川町松下 20-1
E-mail：c.kango-kensyu@sozo.ac.jp

◆お申し込みは、右のQRコードよりお願いします



Ⅲ. 看護学研修センター運営委員会

1. 2025年度運営委員会組織

センター長：藤井徹也

運営委員：蒔田寛子、桂川純子、河合洋子、林美佐、山本義昭

2. 2025年度運営委員会会議

第1回

日時：2025年4月1日（水）14：50～16：00

議題：2025年度活動進捗状況、ホームページについて、2025年度運営委員会開催日程、2025年度外部評価委員、その他、2025年度の予算

第2回

日時：2025年5月7日（水）13：10～14：20

議題：2025年度活動進捗状況、ホームページについて、2025年度外部評価委員、学長への報告

第3回

日時：2025年6月4日（水）13：10～13：40

議題：2025年度活動進捗状況、ホームページについて、2025年度外部評価委員、運営幹部会への報告

第4回

日時：2025年7月2日（水）13：10～14：20

議題：2025年度活動進捗状況、2025年度外部評価委員

第5回

日時：2025年8月6日（水）13：10～13：50

議題：2025年度活動進捗状況、ホームページについて、2025年度外部評価委員

第6回

日時：2025年10月1日（水）13：10～14：20

議題：2025年度活動進捗状況、2026年度予算

第7回

日時：2025年11月5日（水）13：10～14：00

議題：2025年度活動進捗状況、ホームページ、2025年度外部評価委員、その他

第8回

日時：2025年12月3日（水）13：10～14：00

議題：2025年度活動進捗状況、2025年度外部評価委員、その他

第9回

日時：2026年1月7日（水）13：10～14：00

議題：2025年度活動進捗状況、2025年度外部評価委員、その他

第10回

日時：2026年3月4日（水）14：50～16：00

議題：2025年度活動進捗状況、2025年度外部評価委員会、報告書確認

IV. 協力教員

豊橋創造大学保健医療学部看護学科

教授 鈴木知代、教授 原沢優子、准教授 山口直己、講師 井上直子、講師 小俣由佳、
講師 笹木りゆこ、講師 リトル奈々重、助教 都築弘典、助教 徳永麗子、助教 三村絵美、
助教 宮内志保、助手 高野純平、助手 渡邊富士子

V. 看護学研修センター評価委員会

1. 2025 年度評価委員会組織

センター長：藤井徹也

外部評価委員：川合喜恵（豊川市民病院）、吉原郁仁（事務局長）

運営委員：蒔田寛子、桂川純子、河合洋子、林美佐、山本義昭

2. 2025 年度評価委員会会議

2025 年度 豊橋創造大学看護学研修センター評価委員会

日時：2026 年 3 月 18 日 16:00～17:00

議題：2025 年度外部評価委員による評価

豊橋創造大学看護学研修センター

〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下 20-1

Tel : 0532-54-2111

FAX : 0532-55-0803

E-mail : kango-kensyu@sozo.ac.jp

URL : https://www.sozo.ac.jp/kango_kensyuu/